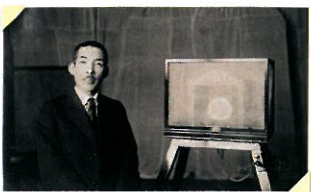


これまでの嵩山蛇穴の発掘調査

嵩山蛇穴は、昭16(1941)年に、愛知県史蹟名勝天然記念物調査会主事の小栗鉄次郎氏によって、初めて発掘調査が行われました。この時、当時最古の縄文土器と考えられた押型土器が見つかったことなどから、嵩山蛇穴が貴重な遺跡であることがわかりました。洞窟入口付近を中心に、これまでに4度の発掘調査が行われました。その成果から、洞窟入口から程近い場所に縄文時代の人びとは生活していたと考えられます。第1次調査では、入口すぐの広い空間から、火を焚いた炉址と押型土器、貝殻が見つかりました。第4次調査では、現在の洞窟床面の下に落盤層が見つかり、これより下にも遺物が埋まっていることがわかりました。



小栗鉄次郎氏近影 (名古屋博物館提供)

嵩山蛇穴では、押型土器をはじめとする今から1万年ほど前の土器や、7千年ほど前の土器などが見つっています。他にも、今から1万年以上前の押型縄文土器とされるものもあります。これらのことから、嵩山蛇穴にはくり返し縄文時代の人びとが暮らしていたことがわかります。土器以外の人工遺物には、土器片を円形に加工した土製品、物をたたき割るための石器(敲石)、貝殻の縁を加工して刃物状にしたもの(貝刃)などがあります。

嵩山蛇穴からは、イノシシ、ニホンジカ、タヌキなどの動物の骨や貝殻も見つっています。貝殻は海水産のハマグリが最も多く、汽水産のヤマトシジミもあります。嵩山蛇穴の人びとは、山の動物だけでなく、遠く離れた海や海の近くで捕れた貝も食べていたことがわかります。

これら出土品の一部は豊橋市美術博物館常設展示でご覧いただけます(展示していない期間もあります)。



嵩山蛇穴平面図

嵩山蛇穴と嵩山宿へのアクセス

公共交通機関の場合

- ◆嵩山蛇穴まで
豊橋駅からバスで35分、豊橋和田辻線嵩山バス停下車、徒歩5分
- ◆嵩山宿(本陣跡、姫街道案内板)まで
豊橋駅からバスで30分、豊橋和田辻線嵩山中村バス停下車、徒歩5分

自家用車の場合

豊川ICから約20分、豊橋市街地から約25分。
嵩山校区市民館の駐車場をご利用下さい。



快適な散策のために ~豊橋市は530運動発祥の地です~

- ・動植物は採取しない
- ・動きやすい服装や靴で
- ・私有地内の見学は所有者の許可を得てから
- ・ゴミは持ち帰りましょう
- ・山火事防止のため禁煙
- ・山では登りが優先 疲れたら無理せず休憩をとりましょう

発行

豊橋市教育委員会 TEL.440-0897 豊橋市松葉町3丁目1番地
豊橋市文化財センター TEL.0532-56-6060 FAX.0532-52-2961

史跡を歩こう!



す せ じゃ あな

国史跡・嵩山蛇穴と 嵩山の歴史散策ガイド

嵩山蛇穴は、嵩山町字浅間下にある縄文時代の人びとが暮らした、鍾乳洞を利用した洞窟遺跡です。嵩山地区には、嵩山蛇穴のほかにも歴史的な文化財が多く残されています。



国史跡・嵩山蛇穴入口



穂の国イメージキャラクター
マゴじろう

豊橋市文化財センター

1 国史跡・嵩山蛇穴

縄文時代の人が生活した洞窟遺跡です。石灰岩が浸食されてできた全長約70mの鐘乳洞で、嵩山自然歩道沿いの山の斜面にあります。入口付近から縄文時代はじめ頃の土器が見つかっている、豊橋市内で最も古い遺跡の一つです。東海地方では貴重な縄文時代の洞窟遺跡であるとして、昭和32(1957)年に国史跡に指定されました。



嵩山蛇穴出土遺物

明治から大正時代に洞窟の奥が土砂で埋まったため、嵩山蛇穴の本来の長さはわかりません。非常に長く続いていたと伝えられ、「長野の善光寺まで続いている」「鎧武者が埋蔵金を護っている」という言い伝えがあります。ほかに、大蛇が住んでいたという伝説があり、嵩山蛇穴の名前の由来となっています。嵩山蛇穴で出土した土器や石器などの一部は、豊橋市美術館の常設展示でご覧いただけます(展示していない期間もあります)のでご注意ください。

見学に際しての注意

- 天井が低い場所や、地面が濡れて滑りやすい場所があります。見学の際には、けがをしないように十分ご注意ください。
- 道が分岐する所があります。洞窟内では、道に迷わないようにお気をつけください。
- 史跡保護のため、洞窟内部を傷つけたり汚したりしないでください。
- 洞窟内に生息する生き物を捕まえたり、採取しないでください。



嵩山蛇穴内部



2 姫街道

～市史跡・嵩山一里塚(西塚)と嵩山宿～

姫街道は、正式には本坂通といい、見附宿から三ヶ日、本坂峠、嵩山宿を通り、御油宿に至る近世東海道の脇街道です。

嵩山宿から三ヶ日寄りに嵩山一里塚(別称・井原の一里塚)があります。街道を挟む一対の塚は姫街道で唯一完全な形で遺る貴重なもので、この内、西塚は市史跡に指定されています。

江戸時代の嵩山宿は、藤下と中村の集落を中心に宿場が広がり、幕末には旅籠11軒と本陣1軒がありました。現在、宿場の西入口には文政12(1829)年に建てられた秋葉山常夜燈が残り、本陣跡の前には姫街道案内板が建てられています。



嵩山一里塚(西塚)



秋葉山常夜燈

3 市史跡・萬福寺古墳と古墳群

月ヶ谷集落の奈木古墳群など、多くの古墳が分布します。その一つ、萬福寺境内の市史跡・萬福寺古墳は、直径約12m、高さ約3mの円墳です。大刀、鉄鏃、耳環、玉類、鳥鈕蓋付脚付壺などの須恵器が出土しています。



萬福寺古墳

4 戦国時代の城址～月ヶ谷城址～

嵩山には左京殿城址、市場城址などの戦国時代の城址が数多く残されています。その一つ、月ヶ谷城址は、西郷氏が拠点とした山城址です。山頂に本曲輪と二の曲輪が、その下に腰曲輪が残されています。



月ヶ谷城址遠景